

## 神奈川県立湘南支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和6年度 第3回湘南支援学校運営協議会		
開催日時	令和7年2月21日(金) 15:00~17:00		
開催場所	湘南支援学校 会議室		
出欠席者	学校運営協議会委員出席9名、事務局(本校職員:出席9名、欠席1名)		
次回開催予定	令和7年5月または6月の午後(開催日時は調整中)		
問合せ先	神奈川県立湘南支援学校 副校長 比留川 はるか 電話:0463-34-7244 FAX:0463-34-8707		
下欄に掲載するもの	議事録	公開を概要とした理由	
審議・回議経過	<p>○開会 会長挨拶、学校長挨拶、事務局より資料確認</p> <p>【令和6年度学校評価(年間評価)】</p> <p>事務局 ○事務局より報告 ※資料内容の要約説明</p> <p>★令和6年度学校評価アンケート結果報告</p> <p>①保護者アンケート ②教職員アンケート ③今後に期待すること</p> <p>★令和6年度学校評価(年間評価)報告</p> <p>○協議</p> <p>委員1 ◎アンケート結果は素晴らしい。児童生徒にとって安全で安心できることが大切であり、それが数字に表れている。個別教育計画への評価も高い。分かりやすい説明で評価が高いのはこの学校の強み。ファイルを自宅に持ち帰ること、などの具体的な実践が結果につながった。その手ごたえが把握できている。数字を高めていく術を持っている点が素晴らしい。</p> <p>・ICTについては保護者の評価と教員の振り返りとのズレがおもしろい。そのズレを研究してみるのもよいかと思う。ICTの使い手としてどう活用するのかを教えてほしいと思うのではないか。</p> <p>・研究でタブレットPCを使った作文の調査を行った。高等部の生徒に研究の協力をしていただいた。2年目までの研究成果をリーフレットにした。協力に感謝している。</p> <p>質問:学校評価報告書4地域との交流について。居住地交流は小・中で行われたとのこと、どのような「いいこと」があったかを知りたい。効果とはどのような内容か。</p> <p>事務局 回答:(小学部L)児童によって差はある。本校でやっている体操の曲を使ったら支援級の児童が元気に動いているのを見て、元気に体操ができた。コミュニケーションの面で効果がある。</p> <p>回答:(中学部L)小学校時代一緒だった子と再開できた。初めて会う生徒とも楽しく交流できた。再開と初対面で、それぞれ楽しくできた。</p> <p>委員1 質問:ボランティアの方の思いと本校のニーズにある差とは何か</p> <p>事務局 回答:(学習推進GL)昨年の何倍も応募があり自分から応募された方が多い。意欲的な提案を受けたが、年間指導計画のもとで授業を進めており、その提案に学校が答えることは難しかった。</p> <p>委員2 ◎学校評価報告書を読んで、学校の主役は生徒である。一方の主役は先生だが、先生に関する記述が少ないと感じた。保護者のアンケートでは、児童生徒の進路が一番の関心なのだとわかる。</p> <p>・支援学校の先生が夏季に企業研修を行っている。26社38名。本校も2名研修した。学校評価に教員研修についても記載するとよいだろう。また、数値目標を書いて年度の終わりに成果をまとめるのもいい。研修の伝達をし、保護者にも企業で学んだことをPRしてほしい。「高等部以外の教員が知る必要があると感じた。保護者に質問されたときに答えることができることが重要。」と研修者も振り返っており、障害のある方がどこでどのように仕事しているのか知る機会である。放課後等デイサービスの職員も見学に来る。支援学校だけでなく障害のある方に係る人にぜひ見てほしい。</p>		

委員2 事務局	質問:放課後等デイサービスと学校との関係はどうなっているか。 回答:(教育企画 GL)5月に集まっていたき、見学や学校の説明をしている。また、学校公開日には地域の方に見ていただいている。放課後等デイサービスの要望でケース会を開き情報共有し、それぞれができることを確認している。
委員2 事務局	質問:学校の先生が見学に行くことはあるか。 回答:(教育企画 GL) 求めがあれば行くがすべてではない。協力していく体制はある。
委員3 事務局	◎PDCA サイクルがしっかりとできている。その手だても明記されている。 質問:アンケート回収率は7割ほど。回収率をあげるにはどうしたらいいか 回答:用紙を配付し封筒に入れて出していただいている。二次元コードを使う学校もあり悩んだ。配付の時期と提出の仕方(担任を通すと何を書いたら見られると思う方もいる)が工夫のしどころかもしれない。項目を減らすのも良いかもしれない。
事務局 委員3	回答:紙・入力の前用をするのもよいかもかもしれない。 質問:ICT の活用について学校の先生は自分がやっているから高い評価、保護者はそれを見ていないから「本当にやっているのかな」となる。どのように保護者へ知らせているか。
事務局 委員3	回答:(高等部L) 学部だより9月号では一人一台端末の特集とし、美術や職業の授業でタブレットを使っている様子を掲載した。 質問:教職員評価、保護者の評価はある。児童・生徒からの評価はないが、どのように把握するのか。 回答:(学習推進 GL) 高等部の生徒を対象に、学校生活アンケートを行っている。主にいじめが起きてないかの把握が目的で行っているが、生徒の声を確認できる。その項目を工夫することもできる。
委員4 事務局	◎アンケートの回収率について。二次元コードを使ったら回収率が下がってしまったという報告もあり、紙にしようかと考えている。
委員4 委員8	質問:アンケートの結果は、『くれよん』を利用している親御さんも支援学校を希望している方が多い。「狭き門」と言っている方もいる。希望通り入学できなかった方にどう報告しているのか。 回答:(学校長) まずは、相当な数の希望があることを伝えている。お互いが納得いただけるようないねいな伝え方をしている。合意形成をていねいに行っている。
委員4 委員8	質問:アンケート結果から見ると多くの方は納得している。一方で少数だが不満を持っている方もいるのではないかと。平塚市でも予算をつけてやってみても実際は利用が少ないことがあった。 回答:(学校長) 不満には、その方の困り感があると捉え寄り添う対応を心がけている。デイリー・ミーティングで管理職と総括教諭が情報共有を丁寧にして問題が大きく膨らまないうちに対応している。
委員5 事務局	◎きめ細かい指導をしているといった印象である。公民館にとっては、学校評価報告書でいうと「地域との協働」が対象になる。清掃や公民館祭りでの作品展示で協力いただいている。また、市内の公民館は学校と同じ数くらいあり。今までのように社会教育施設ではなく教育施設としての役割も期待されている。学校の方にも新しい活用を考えていただいてもいいと考えている。
委員5 事務局	質問:学校評価に関する3年間の比較 9「教職員は一人ひとりの人権に関する指導を行っていますか」の質問に対し、令和4年度が非常に高い。これはこの時、職員に認識される何かがあったのか。 回答:(教育企画 GL) 全体的には悪くない数字である。令和4年に「さん付け呼称」の呼びかけを始めた。そのことが急に高くなった原因と考察できる。保護者は、それを高く評価した。今はそれに慣れてしまったかもしれない。
委員6 事務局	◎アンケートは紙の方が良いと保護者として思う。二次元コードだとスマートフォンの中のことになり埋もれてしまい忘れられてしまうのがデメリットである。紙があるとそこで見るので忘れにくい。 ・「学校へ行くことを楽しみにしていますか」の項目については、うちの子は登校時に先生の姿が見えると小走りに寄って行く。その姿を見ると、学校が楽しいのだとわかる。また、「専門性」という言葉の意味が分かりにくいと感じた。個々に合った指導はしてくれているというのはわかる。そういった指導のことを専門性というのか、違う専門知識のことを言っているのかがわからなかった。 ・さらに、居住地交流・学校間交流をしていることがわかったが、放課後等デイサービスでも色々な触れ合いを体験させていただいている。交流という部分では放課後等デイサービスに助けられている。

委員7	◎切れ目ない支援部会のこと、福祉事業所合同説明会のことも学校評価に入れていいのではない か。アンケートでは8~9割が満足している。このまま推進して行っていいのではないか。
事務局	○部会報告 ①第2回切れ目ない支援部会報告(教頭より) ・動画配信を積極的に行っていきたいとしていたが、個人情報の観点で転勤した職員が登場する動 画を配信できないなどの問題があり、模索はしたが実践できなかった。 ・進路選択に向けた福祉事業所合同説明会では、保護者の方の積極的な参加があった。本校の取 組では二宮高校(インクルーシブ教育実践推進校)が本校校内実習を見学。中原小学校へ高等部 作業学習の一環で清掃などが実践できた。また、福祉事業所アンケートからは、卒業後の進路先の 事業所が本人へどんな支援を行っているのか今まで見えていない部分を知ることができた。社会参 加への流れるような支援には、多職種が連携できることや情報提供が課題である。保護者を支援す ることが本人支援につながるといえる。改めて次年度に向けてやっていきたい。
事務局	②第2回防災安全部会報告(管理運営 GL より) ・避難訓練は、全体として落ち着いて避難できた。避難方法などの質問があった。 ・安心安全に学校生活を送るためにできることは何かと考えている。体験から学ぶ児童・生徒たちで はあるが、あまり怖い思いをさせることもできない。高等部では防災センター見学なども段階的に取 り入れている。洪水やゲリラ豪雨への対応としては、3日分の食料はあるので保護者も安全を確認し てから迎えに来てほしい。
委員2	○ご要望 ◎特例子会社との「企業と語ろう」では、インクルーシブ教育推進校や特別支援学級の関係者も見学 できる。特に、神奈川県は中学校の後の進路に悩む方が多いので、中学校の保護者へのPRも願 いしたい。
事務局	○事務連絡 ・令和7年度第1回協議会開催日時の確認 ・5月30日(金)午後を予定。今年度の学校評価まとめ及び次年度の委員委嘱の件も含めて改めて 連絡を差し上げたい。